



コロナ禍の博物館活動と、 「博物館」と高齢者の健康(Health)・幸福感(Wellbeing)

令和2年度 文化庁「大学における文化芸術推進事業」

2021 九州産業大学国際シンポジウム 博物館と医療・福祉のよりよい関係 ～日本・英国・米国をつなぐオンライン開催～

新型コロナウィルスの感染拡大が続く今、ユネスコとICOM(国際博物館会議)の調査によると、世界の約9万5千の博物館のうち、13%が永久に閉鎖する恐れがあるという。また、平成30年度に行った文部科学省の「社会教育調査」では、国民は年間「1.1回」しか博物館を利用しないという。全国に5,700館余りある博物館は、今後どうなっていくのだろうか?地域社会で、どんな役割を果たしていければよいのだろうか?私たちは、この2年間、「地域社会での博物館の役割」「博物館と医療・福祉機関とのよりよい関係」をテーマに、国際シンポジウムを開催してきた。今回のシンポジウムは、「コロナ禍での博物館活動」、そして「博物館と高齢者の健康、幸福感」をテーマに開催する。

我が国は、団塊世代が75才以上となる2025年を目指し、要介護状態になっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が急がれる。博物館と福祉機関・医療機関等の関係団体と連携して、様々な社会的課題を解決する方策研究を、日本、英国、米国の博物館関係者、そして参加者と一緒に考えていきたい。 *2025年:団塊の世代(1947-49年生)が75歳を超え、5人に1人が後期高齢者という超高齢化社会になる。

オンライン開催 (Zoomを使用)

●2021.2.13 SAT ●2.20 SAT 日本時間 20:00 >>> 22:30

受講料 無 料

* 要事前申込 (お申し込みは裏面をご覧ください)

□主 催 :「博物館と医療・福祉のよりよい関係づくり」の構築に向けた博物館マネジメント人材育成事業実行委員会(九州産業大学美術館<代表>、海の中道海洋生態科学館、九州大学総合研究博物館、福岡市博物館、福岡市美術館、田川市石炭・歴史博物館、直方谷尾美術館)、九州産業大学